

あまぐらの自然

《樹木》

市域の大半を占める山林は、大部分がスギ・ヒノキの造林地で、原始林は古処山頂を除いてほとんどありません。本市には多くの指定樹木が存在し、市内の指定文化財九三件のうち、天然記念物は一九件で最も多く、そのうちの八件が樹木です。指定樹木以外にも、杜寺境内などで保存樹木の巨木がみられ、地域の人々の手によって現在も大切に守られています。

古処山ツゲ原始林

朝倉市と嘉麻市にまたがる古処山（標高八五九m）山頂付近には、国指定特別天然記念物・古処山ツゲ原始林が広がっています。山頂尾根の石灰岩露頭周辺では、石灰岩にしがみつくようにして逞しく生育する姿が見られます。



最も大きなものは、高さ一二m、幹周り三四cm、推定樹齢一〇〇〇年を超え、このようなツゲの大樹は全国的にも珍しく、古処山でしか見られないと言われています。ツゲは材質が固く、美しい艶があることから、櫛や印鑑、算盤の玉などに加工されます。近世に秋月を治めた秋月藩でも、貴重な資源として手厚く保護されました。

隠家森

恵蘇宿に所在する国指定天然記念物で、樹種はクスノキです。高さが約二一m、幹周りは約一八m、樹齢は一五〇〇年を超えと言われています。昔、交通の要所や国境におかれた関所を通る際には許可が必要であり、さまざまな理由により朝倉の関を通れない人がこの大木に身をひそめ、夜になるのを待ったという伝承から隠家森の名称がついたとされています。



久喜宮のキンメイチク

キンメイチクは金明竹とも書き、黄金色の樹皮に緑色の線が入る、縞模様が美しい竹です。他の竹と同様に、孟宗竹・淡竹・真竹があり、当地のものは真竹のキンメイチクで、国指定天然記念物に指定されています。平成二九年七月九州北部豪雨により被災し、現在復興を目指しています。

安長寺の大樟・祇園（須賀神社）の大樟

どちらも高さ二〇mを超える大木で、県指定天然記念物に指定されています。安長寺の大樟・祇園の大樟は夫婦樟で大変むつまじく、夜になるとフクロウを介してお互いに語り合うという伝承が残っています。また、実際にフクロウが飛来し、枝で羽を休める様子も確認されています。



古塔塚のナンジャモンジャ

朝倉市石成に所在する、県指定天然記念物のタブノキです。当初、樹種がわからなかったことから、ナンジャモンジャの名称がつきました。高さは約一二m、幹周りは約四mで、タブノキとして幹の大きさは県下最大級とされています。古塔塚は戦火で消失した「善光寺」の灰を集めたところと伝えられています。

《水生植物》

佐田川や小石原川の扇状地の水域には、湧水で育つスイゼンジノリ（絶滅危惧Ⅰ類）やオキチモズク（絶滅危惧Ⅰ類）、ヒメバイカモ（絶滅危惧ⅠB類）が自生しています。

スイゼンジノリは淡水ノリの一種で、水質が良いところではしか生育ができません。本来の生育地で見られるのは、現在は黄金川のみであると考えられています。川茸とも呼ばれ、朝倉市の名産として親しまれています。



《動物》

本市は山間部と平野部からなるため、多様な生物をみることができます。山間部では国指定天然記念物であるヤマネ、「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（種の保存法）においての国内希少野生動植物種に指定されているクマタカ（絶滅危惧ⅠB類）などが確認されています。近年では国の特別天然記念物であるコウノトリ（絶滅危惧ⅠA類）の飛



古処山には、美しい模様と光沢質の羽をもつニシキキンカメムシが生息しています。ニシキキンカメムシはツゲを食べるため、餌となる植物が多くある古処山は、絶好の生息地です。また、成虫になるまで数回脱皮を繰り返し返します。脱皮直後は鮮やかなオレンジ色ですが、時間が経つと特徴的な模様が浮かび上がります。このほか、市内には多くの蛭が生息しており、初夏になると秋月、三奈木、黒川、金川などで蛭観賞を楽しむことができます。市内で確認されている蛭の種類は、ゲンジボタル・ハイケボタル・ヒメボタルです。

